

「やまぐち型地域連携教育」の推進に向けて

山口らしさあふれる「やまぐち型地域連携教育」への期待

山口大学教育学部 教授 霜川 正幸
(やまぐち型地域連携教育推進協議会 会長)



私は、これからの時代に求められる学校の姿（期待される学校像）を次の5点で描いています。①子どもに上質の教育を保障できる学校、②子どもや教職員が安全・安心に生活できる学校、③教職員の職能成長を実現できる学校、④保護者や地域住民の方々の信頼や期待に応え共に成長できる学校、⑤地域コミュニティの拠点として歩むことができる学校です。そして、そのためにも、これからの学校は「地域に貢献できる学校（地域の中心に位置する公共機関としてコミュニティ形成へ寄与できる機関）」でありたいと願います。同時に、ふるさと「山口」に夢や志を寄せられる人材、後継者を育てるためにも、これからの地域は「学校に貢献できる地域（地域の教育資源の総和による学校教育の特色や質の向上へ寄与できる地域）」であってほしいと期待します。

古来、山口県には豊かで温かく先進的、愛郷的な教育風土があります。教育や人づくりを大切に思い学校と地域のつながりを大切にする土地柄です。そして何より、ここには、学校・家庭・地域を結び、地域ぐるみで子どもたちの育ちや学びを支えようとする人たちがいます。私が「やまぐち型地域連携教育」に期待する所以です。共に頑張りましょう。

ふるさとを愛し、心豊かで夢や志のある子どもたちを育む

山口県社会教育委員の会議 議長 江原 健二
(やまぐち型地域連携教育推進協議会 副会長)



今日、少子高齢化や人口減少が急速に進行し、持続可能な地域づくりが大きな課題となり、地方創生が強く求められています。

そのような中、県では、「元気創出やまぐち！未来開拓チャレンジプラン」を策定し、社会総がかりによる「地域教育力日本一」を掲げ、ふるさとやまぐちを愛する子どもの育成を推進しています。

これは、学校のコミュニティ・スクール（学校運営協議会）を核とし、本県独自の「地域協育ネット」の仕組みを生かした「やまぐち型地域連携教育」であり、全国に先駆けた取組で、子どもたちの学力向上や郷土愛や地域貢献など、一定の成果を上げています。

各市町では、この取組を更に充実・発展させていくため、首長部局との連携を一層深め、人づくり・地域づくりの好循環を創り出すことが重要と考えています。

その中で、私たちは、ふるさとを愛し、心豊かで夢や志のある子どもたちを育むため、地域の行事や伝統文化、環境・福祉の地域課題などにも積極的にに関わり、多くの人を巻き込み、日本一の学校づくりや地域づくりを進めていきたいと思えます。